



第33回

後藤 暁子

オンラインコンサルタント

30歳まで ド文系だったのに 技術者になった私

のっけから申し訳ありませんが、私が「リケジョ」というと、大変疑問符のつくところではあります。

なぜなら、私が大学の時に勉強したのは、経済学部経営学科。22歳で卒業した後、就職した外資系2社では、7年間、営業を担当していました。

つまり、まったくド文系女子だったのです。

そんな私がいささかでも「リケジョ」らしきことに手を染めた転機は、29歳の時に、「株式会社オンラインコンサルタント」という会社を立ち上げたことです。

新卒でアメリカのモトローラという会社で、携帯電話のインフラの営業をし、その次はイギリスのセキュリティソフト会社の営業をしていて、IT周りの仕事をずっとしていました。

その中で、日本におけるITの会社のあり方に疑問を感じていました。

一つは、プログラマーという職が、あまり魅力的ではないと思われていたことです。

根暗で、パソコンに向かうのが好き。朝から晩までせっせと働く。長時間労働で薄給。体力勝負なので、若いうちしかできない。重箱の隅をつつくように、完璧な仕様通りのソフトを作ることが、技術者の仕事。

一方、私が就職した最初のアメリカのITの会社、イギリス&カナダのソフ

トウェアの会社では、もっと技術者が柔軟に働いていました。

自分で仕様を考える。自分で顧客に提案もする。そんな技術者たちがいました。

これからは、Googleなどのように、技術者がサービスを考える時代です。そんな会社が作りたいたいと思い、創業しました。

というわけで、自分ももちろん

プログラムというものを やってみよう!

と思ひまして、手を付け始めたわけですが。それが30歳の時です。

最初は、簡単なホームページを作る会社でしたので、問合せフォームというものを作ったのが、私のプログラミング経験の最初です。

問合せフォームというのは、よくWebサイトで見られる、何かを入力して、「送信」とやるアレです。

2006年、2007年当時は、Perlという言語で書くのが主流でした。

最初は、大変な困難が待ち受けていました…。いきなり、テキストファイルに#とか\$とか、いろんな記号が並び、目が点に…(°Д°)

特に苦労したのは、自分のPCで動作させる、などといういわゆる開発環境の作成ですね。本を読んでも右も左もわからず、とにかく試行錯誤しました。

現在も一緒に仕事をしているエンジニアの助けやアドバイスがなければ、どうにもあきらめていたと思います。彼には今でも深く感謝をしています。

さて、なんとか最初の一步を踏み出

してみると、プログラミングとはなんとも楽しいことだったのです!!

今までは、誰かに頼まないとできなかったことが、自分でできる喜び!まるで、ホグワーツから迎えが来たようで、一般人から魔法使いになったように感じます。

ITというこの世の秘密の一端が、少しだけわかったのです。

それからは、のめりこみまして、ブログサイトを作ったり、ネットショップを作ったり、今ではスマートフォンのアプリを作るのが、メインの仕事となっています。

というわけで、私も現在は、経験年数8年のいっばしの技術者(笑)になったわけです。

「リケジョ」としてこの原稿の執筆者としてお呼びがかかったわけですね。ヽ(´ω`○)。

さてさて、「リケジョ」なる言葉の響きの近寄りたさ、なんかまつわるイヤなイメージ…あると思います。

なんか、白衣とか着て…眼鏡をかけて…夜まで実験をし…しゃれっ気はまったくなく…ちょっとコミュニケーションしにくいけど、そんな自分が嫌いではない、というつつきにくい女。最近、「シンゴジラ」って映画見たんですよ。それに出てくる、愛想のない市川実日子さんが演じる女性が、リケジョっばいですね。(笑)

そして、弊社でプログラマーを募集していますが、99%、男子しか来ません!(涙)

なぜでしょう?

†株式会社オンラインコンサルタント

"How a Salesperson Became an Engineer at the Age of Thirty" by Akiko Goto (Online Consultant Co., Ltd., Kanagawa)

もっと女子にプログラマーを志望していただきたい！それが、私の常日頃思うことです。

プログラマーというのは、教えてくれる人さえいれば、そんなに難しくはありません。文系でも、女子でも、若くなくても今すぐできます。現に、私は30歳までド文系だったのに、そこからプログラミングを始めたわけですから。

「リケジョは本当に輝いているのか、男性と同様の長時間労働で疲弊しているのではないか」と疑問をお持ちの方はおられませんか？

「家族も親類も皆文系、周囲にも話が聞けそうなリケジョはいない。けど自分的には、ロボットとか、AIとか、VR(仮想現実感)とか、新しい文化を生み出す技術に興味がある」とお悩みの女性のあなた！ぜひ、この「輝け！リケジョ」を読んで、自信をもって理系に進んでください。

というのがこのコーナーの趣旨と伺いました。そして、私も日々伝えたいことので、その点、お話していきましょう。

まず、輝いているか？ですね。

輝いているか…うーん、自分で輝いていますとはまったく言えませんが、とっても楽しくやっているのは事実です。

毎日、楽しいです。だって、好きなことを仕事にしてるんですから。

子供のころ、絵を描いたり、刺繍を作ったり、そんなことをしている時間って至福じゃありませんでした？

自分で何かを生み出す仕事は楽しいものです。

仕事を始めると、「自分の仕事が楽しい！」と胸を張って言える人というのは実に少ないです。それを思うと自分が楽しいと思えること、輝いているかとは別に、とっても最高のことではないでしょうか。

また、ITは毎日ぐらゐのスピードで新しいことに出会える業界です。常に新鮮な驚き、知的好奇心が満たされます。

毎日新しいことをしなくてはならないことを苦痛に感じるタイプの方もいるでしょうが、私は逆に楽しく感じて



います。何かを繰り返すことは、退屈ですよ。

また、女性と言えば「ファッション」とか「メイク」とか「ネイル」とかそんなところも注目されたりしますよね。

「おけいごと」で自分磨き♪なんていうのも、充実しているかどうかの指標だったりしますよね。

もちろん、やればよいと思います。そんなに忙しくはありません。

ただ、私は「おけいごと」ということをやりたいとはまったく思いません。そんな時間があれば、プログラミングの本でも読んで、勉強したいのです。

ネイルもやりませんね。キーボード打つときに差し支えますから(笑)常に、爪が短くないとイヤです。

次に、男性と同様の長時間労働…ですね。

これは、確かにどうしようもありません。女ですから。体力もそんなになんてです。夜は早く寝たいし。

男性と同じように長時間は働けません。

私はどうしているか、というと、メリハリつけてやっています。ある時は長くやるし、ある時はさっさと帰る。最近は、仕事が順調なので、さっさと帰ることが多いです。自分で料理して、いっぱい野菜を食べたりすると、翌朝の目覚めもいいし、美容にもとってもよいと思います。

ただ、メリハリと言いましたが、踏ん張らなきゃいけない時は、男性と同じく踏ん張らないといけないと考えています。

それは、理系職に限ったことではあ

りません。

女性が働くということに関して常々思うことです。

私が経営者だからそう思うのではなく、経営者になる前から、そう考えていました。

いざというときに踏ん張れないと、周囲のがっかりさ加減が、やっぱり女性に対して冷たくなっちゃうんですね。

「だから女はダメだ」ってなってしまうのです。

常にフルスロットルでなくてもよいと思いますが、頑張り時を見極めて、頑張ってください。

今年の春には、シリコンバレーに行ってきました。アメリカでも、IT業界では女性はとても少ないです。技術者となると、さらに少ないようです。

私は「女性ならではの起業」「女性ならではの発想」という言葉が大嫌いです(笑)。

「女社長」「女性プログラマー」と言われるのもいやですね。

そんな言葉がなくなるように、女性がいろんな分野でもっと活躍する時代が来るように願っています。

力仕事と違い、男性だけが向いている仕事ではないのです。

つまり、女子がプログラマーをすることにはハードルはまったくありません。

隣町へ行くぐらゐの気軽さで、理系職に踏み込んでみてほしいと思います。

(2016年12月13日受付)